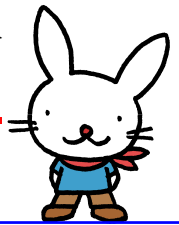




We こ た つ

Love



— 日本福祉大学 子ども発達学部ニュースレター —

第4号 2009年12月1日発行

南知多おもちゃ王国での活動が始まる

— 10月18日にはおもちゃ王国内で学生企画を実施! —

子ども発達学部とおもちゃ王国との交流協定後の第1弾イベントとして、9月12日(土)から11月30日(月)まで、南知多おもちゃ王国にて「おもちゃエキスポ」(ワールド・トイズ・フェスティバル)が開催されています。これは、世界9カ国約100種類のおもちゃを集める企画で、それらの選定にあたっては、子ども



エプロンシアターやりました!!

も発達学部が協力し監修を務めています。

その中で、さっそく学生企画として、10月18日(日)、折り紙、紙飛行機、スライム、エプロンシアターが行われました。学生の指導の下、来場の子どもたちは、様々な色のスライムづくりやハロウインの折り紙お面づくり、紙飛行機の製作と飛ばしっこ、エプロンシアターの見学を保護者とともに楽しみました。

事前準備を頑張った学生たちは、子どもたちの素敵な笑顔に多く触れて、心地よい充実感を味わうことができました。



当日の塩野谷ゼミの学生たち

子ども発達学部が ワールド・トイズ・フェスティバル監修

「おもちゃエキスポ」(ワールド・トイズ・フェスティバル)は、日本福祉大学子ども発達学部が監修しています。

子どもの発達に資するおもちゃの選定に本学が全面的に協力しています。

南知多おもちゃ王国での活動紹介!

子ども発達学部では、南知多ビーチランド・南知多おもちゃ王国との交流協定に基づいて、活発な活動が行われています。

保育実習の事前指導や総合演習などの授業の一環として、クラス単位でおもちゃ王国を訪問しています。その中で、学生自らが様々なおもちゃで遊ぶ体験をしたり、来場の親子と交流したりしています。また、学生による心理学の調査活動も行っており、学生教育の新たなフィールドとして大いに活躍しています。

将来小学校や幼稚園、保育園や施設の先生を目指す学生たちにとって、子どもとの円滑なコミュニケーションを促すツールとしてのおもちゃ理解がとても大切になります。それを実際に子どもたちと関わりながら実地に学べる機会は、普段あまりあるものではありません。しかし、子ども発達学部ではその機会を得て、教育実習や保育実習の事前学習にも役



立っています。

現在はさらに進んで、教員による指導中心の授業だけではなく、学生自身の企画による活動も行われています。おもちゃ王国スタッフのご助言を頂きながら、子どもたちと楽しく遊んで、その中で子どもたちが様々なよい経験・学びを得る機会を、学生たちが知恵を絞って実践していきます。

塩野谷 斉(子ども発達学科 准教授)



Nihonfukushi University

学校体験が本格的にスタート！

－美浜町内の学校で教職インターンシップを実施－



初等教育専修のインターンシップが5月から始まりました。美浜町にある6つの小学校と2つの中学校に2年生約60人が通って、「学校で働くこと」を体験しています。学校で働くというのは、教室で授業をするだけではありません。プリントのマルつけをしたり、子どもとおしゃべりするのはもちろん、子どもたちの安全、衛生・健康に配慮し、学校という建造物の維

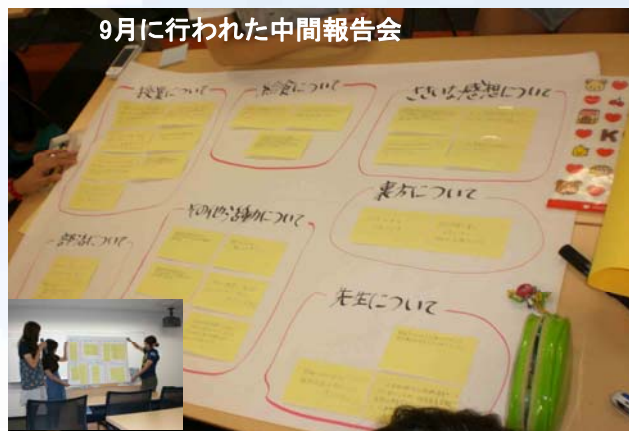
小学校での下校指導の様子 持・管理をしたりするなど、直接子どもとは触れ合わない仕事もたくさんあります。そういう仕事をしながら、教師として働くことを体験するのがインターンシップの目的です。

学校を訪問して学生の姿を見てみました。いやいや見違えるほど「(見かけは)先生らしく(?)」しているではありませんか。子どもたちが「ねえ、ねえ」「おい！」「あのさ～」とかかかわってきて、それにまっすぐに向き合っているうちにそうなったのでしょ

う。黒板に下手な絵を書いて自己紹介したり、子どもたちの話を体育館でじっくり聞いたり、竹馬を修理している姿に、数年後の学生たちの姿を重ねてみてしまいました。

9月には前期日程を終えた学生たちで報告会を行いました。1年生の時は仏頂面だったM君が、笑顔満面のアイドルに変身するなど、みんな少しずつ成長したなどと思える姿が見られました。給食、草取り、夏休みのプール、子どもにやられて傷ついた、あの頃の自分もそうだったと思いだした、先生の仕事は子どもとかかわるよりそれ以外が多いなど、それぞれが学んだことを報告しあいました。「授業をしてみたかった」という前向きというか、怖いもん知らずの発言もあり、今後の教科指導法、教育実習が楽しみです。
山本敏郎(子ども発達学科長)

9月に行われた中間報告会



2年生の保育実習始まる！

－実習前には保育所を訪問して保育所を体験－

子ども発達学科・保育専修の2年生では、11月中旬から2週間、保育所実習が始まりました。後半の2週間は、2月にまた同じ保育所に行きます。

これに先立ち、事前学習の一環として、5月下旬に、美浜町の公立保育所6か園にお願ひして、半日の体験学習に行ってきました。

学生たちは、朝の登園の自由あそびの時間から、さっそく園



庭や教室で、元気な子どもたちに「遊んで」もらいました。日頃から、保育者は、まず体力が「資本」であることを実感しました。その後、各クラスに分かれて、担任の先生と子どもたちの保育活動を見学させていただきました。自己紹介をさせていただき、準備

して練習した手あそびや、紙芝居の読み聞かせの時間を取っていただいたクラスもありました。

子どもたちは、たくさんのお兄さん・お姉さんたちが来てくれ、大喜び。学生たちは、「ねえ、ねえ、・・・」と一度に何人もの子どもたちから話しかけられたり、手を引っ張られたり。まだまだ未熟で、なかなか担任の先生みたいにはいきません。でも、子どもと交わり、年齢に応じた子どもたちの発達の様子を実際に理解でき、保育の難しさ・奥深さを理解していくきっかけとなりました。

園長先生をはじめ、担任の先生方には、よい機会をつくっていただき、どうもありがとうございました。この場を借りて、あらためて御礼申し上げます。

亀谷和史(子ども発達学部長)





2009年11月7日（土）オープンキャンパス・父母懇談会が開催される！

11月7日の大学祭に合わせて、美浜キャンパスにおいて、オープンキャンパスと父母懇談会が開催され、当日は、多くの高校生と在学生の父母が来場し、大いに盛り上がりました。高校生は各学科の体験企画や大学説明会に参加し、在学生の父母は、担当教員と就職、成績、学生生活などの状況について個別に相談をされていました。

心理臨床学科 - 心理学体験 -



心理臨床学科では、学科企画として、高校生のみなさんと本学1年生を対象に、体験授業を行っています。今年度は、①オープンキャンパス企画(7月18日、19日、8月23日実施)、②1年生体験交流(9月30日実施)、③大学祭オープン

キャンパス企画(11月7日実施)の3つの企画を計画しました。

①と③のオープンキャンパス企画は、オープンキャンパスに来られた高校生のみなさんに、心理臨床学科2年次開講の「心理学実験・実習」の一部を体験してもらいながら、心理学について、また心理臨床学科の学生の様子や大学生活について関心をもっていただければと開催しているものです。今年の夏のオープンキャンパス企画では、3日間で箱庭、社会心理学実験、生理心理学実験、心理テスト、発達観察法の体験授業を実施し、合わせてのべ200名余りの高校生のみなさんに参加い

ただきました。

②の1年生体験交流では、同じく「心理学実験・実習」の一部を本学の1年生が体験し、来年度彼らが履修することになる実習のイメージをもつことが目的です。

いずれの企画においても、心理臨床学科の教員の他に、2年生がアシスタントとして参加し、高校生や1年生のみなさんに心理学実験を紹介することで、日頃の学習の理解をさらに深めていくことをめざしています。



高校生や保護者のみなさま、大学生のみなさんに、実験や学生との交流を通じて心理学をより身近に感じていただけると嬉しいです。

瀬地山 葉矢(心理臨床学科 准教授)

子ども発達学科 - 音楽授業体験 -

小学校や幼稚園の教諭または保育士になりたいけど、音楽が苦手。大学に入っても音楽系の授業がついていけるかどうか心配。今からピアノを習



い始めてみようと思うけど、もう遅いかな・・・という悩みを抱えている高校生が、実は多いのではないのでしょうか。音楽室では、そんな高校生の為に、こうした職業に就くためには、どういった音楽技能が必要なのか、どんな勉強したらよいか、という事を、実際に体験してみました。具体的には、良く歌われている子どもの歌に、ワンポイントレッスンで簡単な伴奏をつけて演奏してみました。

すると、音楽が苦手な人も、これなら自分の努力次第でやっ

ていけそうだ！と、手ごたえを感じた人。逆に、やっぱり自分にはちょっと難しい・・・と思って家路についた人。様々だったと思います。しかし、今回の音楽体験を通して、一人でも多く「音楽恐怖症」から一歩抜け出せた人がいたのではなかと信じています。

中里南子(子ども発達学科 准教授)

- 国語授業体験 -



今回の企画は、子ども発達を希望する高校生を対象として模擬的授業をやりました。有名な詩をとりあげ、□の空欄を作りどんな言葉がふさわしいかを考えるものです。宮澤賢治の『雨ニモマケズ』の詩句で東西南北を探したりする授業です。参加者は少なかったですが、大いにありがとうございました。高校2年生は、保育専修を志望でした。長野から参加した初等教育専修の希望者もいて交流もできました。

小林信次(子ども発達学科 教授)

セミ活動紹介！ -伊勢田ゼミ-

＜劇的表現を通じて子どもの発達と文化の関係を考える＞



伊勢田ゼミでは「子どもの発達に果たす文化の役割」をテーマとし、前期は絵本、後期は劇を取り上げて研究しています。

そこで、ここでは後期の研究状況を報告します。

現在、ゼミでは4班に分かれて子どもを対象とした劇づくりに取り組んでいます。取り上げられている劇も様々で、そのジャンルは演劇ともいわれる劇、指人形による人

形劇、紙人形によるペープサートなどに及びます。テーマも友だちや仲間などとの関係における助け合い、協力・共同などが主となっていて、子どもたちの日常生活とも深く関係していますから、とても楽しい内容となっています。

ところが、劇の経験は保育園、幼稚園以来やっただけで、初めは小道具づくりにしても練習にしても、皆、戸惑い、てこずっている様子でした。やがて、練習が進んでくると、それぞれに个性的に演じようとして工夫が見られるようになりました。中には夢中になっている学生もいて、何事にも前向きに取り組む心理臨床学科の学生の姿を垣間見たように思います。

なお、劇の発表は中庭の野外舞台で、11月25日、12月2日、それぞれ3限に行く予定です。皆さんの鑑賞を期待しています。
伊勢田亮（心理臨床学科 教授）

美浜町教育委員会の研修会を開催

-8月28日(金)美浜キャンパスにて-

美浜町の2中学6小学校の校長、教頭、主幹教諭、教務主任、校務主任を対象として行われている「美浜町四役職者研修会」が本学美浜キャンパスで開催されました。

本学では、美浜町内の小中学校にインターンシップで学生を受け入れていただくなど、子ども発達学部の立ち上げとともに、美浜町教育委員会とのかかわりを強めてきました。今回の研修会も、本学と美浜町の教育関係者との日常的な連携の一環としておこ

なわれたものです。午後3時に、本学美浜キャンパスに集合した各小中学校の先生方はまず、本学職員の案内で、学内見学。昨年新しく建てられた子ども発達実習棟をはじめ、学内を見て回りました。4時からは、410教室で、子ども発達学部の亀谷和史学部長から「子ども発達学部設立の経緯・設立趣旨と教育理念等」について、子ども発達学科の山本敏郎学科長から「今日の教員養成の課題と教職インターンシップ」についてのミニ講演が行われました。



教員紹介



山本敏郎 子ども発達学科 学科長

どうも先祖は倭寇らしい。父方の祖父の出生地は長崎県の平戸島のその隣にある生月島。そこへいくと秀吉時代に東シナ海を暴れて掠めとった財宝があるらしい。だからだろうか、社福の4年生は山本を「モンスタープロフェッサー」といっていじって楽しむ。おかしいことを「おかしい！」というモンプロの専門は生活指導。人びとが、生活と自己自身をつくりだす主体として自立していくための指導・支援の在り方を研究しています。RockとBluesとBalladがあればご機嫌です。



いけや ひさお
池谷壽夫 心理臨床学科 学科長

専門分野は教育哲学です。具体的には〈子ども-大人〉関係や子ども・青少年問題、ジェンダー論を研究しています。1年次に「現代子ども論」や「こころとからだ」、「哲学」、2年次には「ジェンダー論」、3年次以降は専門演習を担当します。趣味は映画、マンガ(とくに少女漫画)、その他面白い本を見つけ出すことです。子どもを理解し共感できるためには、専門知識とともに、子どもをめぐる幅広い知識と柔軟な思考が求められると考えて、授業をしています。

ニュースレターのタイトル「We ♡ こたつ」は、学生からの公募で決定しました。子ども発達(「こどもはっ「たつ」)の「こたつ」です。暖かい団樂のイメージと重ねているそうです。



編集長：亀谷和史(学部長)
編集委員：遠藤由美(子ども発達学科)
塩野谷斉(子ども発達学科)
吉原智恵子(心理臨床学科)
佐藤雅信(事務長)

